



SAKAIGI JHS

境木中学校学校だより 2019th

令和2年3月11日



横浜市立境木中学校

校長 三浦 昌彦

〒244-0802 横浜市戸塚区平戸 3-48-2 TEL 045-822-8626 Fax 045-826-3826

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/sakaigi/>

《学校教育目標》

未来を心豊かにたくましく生き抜く真の「生きる力」を育む教育を推進します。
～素直な気持ち・思いやり、辛抱と我慢ができる心、たくましい体、社会への貢献～

気持ちの持ち方次第で

教務主任 田中 修二

何歳になっても人の言葉にはっとすることがあります。先日、友人とゴルフの話をしていた時のことです。ゴルフは基本的には4人1組でプレーするスポーツです。よって、4人より少ない人数で申し込むと、通常はゴルフ場側で組み合わせて4人組にするので、初めてお会いする方と一緒にプレーすることになります。そのような状況をイメージしてみてください。どんな気持ちですか。「気疲れしそうだなあ」、「落ち着いてプレーできないなあ」という否定的な意見が大勢を占めていると思っていたのでその友人に同意を求めたら、「新しい知り合いが増えていい。」と事もなげに言い放ちました。その件に関する会話はそこで終わったのですが、この前向きな言葉に心の中は徐々に大きな衝撃を受けていました。この友人と比べると、人との関係を広げていくという点では今まで大きな損をしていたのではないかと。今からでも遅くはない、これから出会う人はたくさんいる。早速マインドセットを変えてみようと思い決めました。同じ状況でも気持ちの持ち方次第で見えるものは変わる、得るものも変わってくるのでしょうか。

4月は多くの人たちにとって環境が変わる時期です。卒業生は新たな進路先で、在校生は新しいクラスで生活することになります。新しい環境に行くうえで不安の方が先走りそうな人は「新しい知り合いが増えるかな」の方の気持ちを持って出発してはいかがでしょうか。気分も軽く、素敵な笑顔で出会いを迎えられるでしょう。

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。前向きな気持ちを持って豊かな人生を送ってください。



卒業生の姿が見えなくなるまで、最後まで見送る校長先生。



時刻は8時50分。卒業生がもうすぐ入場する体育館。
式次第は、2年生の温井結良さんが3月10日書き上げました。

第52回 卒業証書授与式 3/11



3月11日、第52回卒業証書授与式を挙行了しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、臨時休業中の卒業式でした。卒業生の保護者の皆様、来賓の皆様、在校生の皆さんに参列いただけなかったことが残念で仕方ありません。卒業生と教職員、在校生代表、PTA本部の皆様の参列で、卒業式を挙行了しました。

天気恵まれ、青空の下、卒業生は、境木中学校で学んだたくさんの思い出を胸に元気に巣立っていきました。

学校だよりを通して、卒業式の様子をお届けさせていただきます。

令和元年度 送 辞 生徒会副会長：2年 藤吉 莉央

冬の寒さも和らぎ、徐々に春の暖かさが感じられるようになりました。この佳き日に、先輩方を多くの在校生がお祝いしたいと思っておりましたが、コロナウイルスによる影響からそれが叶わないことが心残りではありません。在校生を代表して、先輩方へのお祝いと感謝の言葉を述べさせていただきます。

三年生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。私たちが入学してから、お世話になった先輩方の卒業を共にお祝いできることが嬉しくもあり、同時に寂しくもあります。

先輩方は境木中学校の最上級生として、行事や部活動、委員会などで私たちの手本となって導いてくださいました。先輩方の姿はとてまかっこよく、私たち後輩にとっての目指すべき目標でした。

部活や委員会では、まだ何も分からない私達に一から丁寧に教えてくださいました。テキパキと動いているその姿は、とてまかっこよかったです。今、私達が後輩にたくさんのことを教えられるのも、先輩方から教えていただいたおかげです。先輩方のようなかっこいい先輩になれるように、これからも頑張っていきたいと思えます。

文化祭では、体育館中に響く歌声に迫力を感じ、とても感動しました。三年生が歌い始めた瞬間、会場の雰囲気が変わり、思わず聴き入ってしまうほどの合唱はとても素晴らしかったです。合唱に対して本気で取り組み、全力で楽しみ、終わった後はお互いを認め合う先輩方の姿に、私たちは尊敬と憧れを抱きました。

先輩方はいつでも私達に足りないものを気付かせてくださいました。以前、私たちがおしゃべりに夢中になり、片づけをしていなかったときに、先輩から厳しく注意されたことがありました。言われてから気付かされ、教えられたことは他にもたくさんあります。私達がここまで成長できたのは、先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。

私達はいよいよ最上級生になります。まだまだ未熟な私達ですが、来年度から後輩を引っ張っていく立場になります。不安はたくさんありますが、境木中学校がよりよくなるように精一杯努力していきます。また、信頼されるような最上級生になれるように、胸を張って前に進んでいきます。そして、今の先輩方のように尊敬され、憧れられるような人になりたいと思えます。

今、先輩方は一歩ずつ、夢に向かって羽ばたいてゆこうとしています。先輩方なら、困難なことがあっても、きっと乗り越えられると信じています。在校生一同、卒業生の皆さんをこの境木中から応援しています。

卒業生の皆様のご健康とご活躍を心より願い、送辞とさせていただきます。

令和二年 三月 十一日
在校生代表 藤吉 莉央

令和元年度 答 辞

前生徒会長：3年 川勝 麻那

空を飛び交う小鳥のさえずり。暖かい春の光。今にも開こうとしている桜のつぼみ。そのすべてが私たちの旅立ちを祝ってくれているかのようです。

本日は、晴れて卒業生となった私たちのためにこのような素晴らしい式を開いてくださり、本当にありがとうございます。

三年前の春。あの日、私たちの中学校生活は幕をあげました。大人への階段を一つ昇ったような気持ちで、これから始まる新しい生活に胸を弾ませていたことを今でも鮮明に覚えています。

新しい仲間と共に大自然を満喫した自然教室。班ごとに計画をたて、トラブルが起きても臨機応変に対応することができた東京校外学習。日本の伝統文化に触れ、京都・奈良を思い切り楽しんだ修学旅行。これらの校外学習を通して、私たちは、互いを思いやり尊重し合うことの大切さを学びました。

この学びを活かすことができたのが、体育大会と合唱コンクールでした。体育大会には“みんなのために、今、自分に何ができるか”を考えて臨みました。より良い結果を出せるように、クラス全員で話し合って作戦を立て、それを実行し、改善してまた実行する・・・ということを繰り返す中で、仲間の成功を自分のことのように喜んだり、苦しみや悔しさを噛みしめたりすることができました。その結果、“一部の人がだけ頑張るのではなく、みんなの力を合わせて全員で頑張る”という気持ちが自然と芽生え、気持ちを一つに体育大会を終えることができました。

体育大会以上に全員の協力が必要だった合唱コンクール。合唱というのは一人ではできないので、個人やパート練習だけではなく、複数のパートで合同練習を行って、互いの音程を確認し合うことで、自分たちに足りないものを補っていきました。こうして、自分たちの力で作り上げた合唱は、昨年度までとは比べものにならないくらい、厚みのある美しいハーモニーになったと思います。

こうした行事の一つひとつによって、クラスの絆や学年全体の団結力をより一層深めることができたと感じています。これらの行事の後は、それぞれが自分の進路に真剣に向き合い、四月からの新生活の準備を進めていきました。それは同時に、卒業、そして、仲間との別れの準備でもありました。別れる前の思い出作りとして、学年祭や球技大会など、さまざまな行事が予定されていました。

しかし今年は、新型コロナウイルスの流行により、私たちが楽しみにしていた行事のほとんどはなくなってしまいました。当たり前だった日常が、あっという間に消え去ってしまったのです。特に、三月三日から休校になると聞いた時には本当に驚き、同時に、私たちの卒業式はどうになってしまうのか、とても不安でした。そんな暗い話題が多い中でも、今回、私たちのためにこのように美しい会場を準備していただき、あたたかく迎えてくださった先生方には本当に感謝しています。いつも私たちに寄り添い、迷ったり悩んだりした時には背中を押してくださいましたね。時には厳しい指導に反発することもありましたが、それでも優しく見守り続けてくださった先生方。今まで本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、これからは皆さんが境木中学校を引っ張っていく番です。よりよい学校、よりよい集団を作るためには、お互いのよいところに目を向け、一人ひとりがそれを自分に活かしていくことが大切だと、私は考えます。完璧な人間はいません。だからこそ、互いに補い、協力していく必要があるのです。これを実行することができれば、新入生の見本となるような先輩になれると思います。皆さんならできます。私たちは応援しています。

そして、三年間を共に過ごした卒業生の皆さん。この三年間を通して、ここに居る全員と私が仲良くなれたわけではありません。しかし、いろいろな価値観を持つみんなと出会い、共に過ごせたからこそ、自分自身の視野が広がり、より良い関係を築くためには何が必要なのかを学ぶことができました。そうしてできた友だちとは、一緒に笑ったり、泣いたり、時には喧嘩をしたりしながら関係を深められたと感じています。いつもそばにいて、他愛のない会話が盛り上がる友だちは、私にとってかけがえのない存在でした。本当にありがとう。

何より、十五年間私たちを育ててくれた保護者の皆さま。身近な存在であるがゆえに素直になれず、反発して傷付けたり、心配をかけたりしてしまったこともありました。それでも、私たちのことを大きな愛情で包み込み、常に気にかけて、大切に思っていてくれました。日ごろは素直に言えないけれど、「ありがとう」という一言では表現できないくらい感謝しています。私たちが大人になるその時まで、どうか温かく見守ってください。

明日から私たちは、自分が選んだ道を歩いていくことになります。たくさんの道の中から、それぞれが選んだ一本の道には、希望だけではなく、困難が待ち受けていることもあるでしょう。そんな時、目の前にあるのは“乗り越えなければならない壁”ではなく、“開くことのできる扉”だと考えれば、歩み続けられると思います。このように、私たち卒業生一四九名は、何が起きても諦めず、一つひとつのことに真摯に向き合い、自分自身を成長させていくことをここに誓い、答辞とさせていただきます。

令和二年 三月 十一日
(第五十二回) 卒業生代表 川勝 麻矢



生徒会本部

ユニセフ募金へ 28,569円

生徒会本部役員が、1月の登校時間に校門に立ち、境木中の生徒の皆さんにユニセフ募金を呼びかけ、多くの生徒の協力を得ました。また、境木中の生徒ボランティアが、「権太坂境木自治会夏祭り」(7/27: 境木中第2グラウンド会場)でヨーヨー釣りやかき氷販売で売り上げた11,000円(自治会より)も一緒にユニセフに募金しました。

図書委員会

「ベストリーダー賞」

8月～12月の間、図書室での本の貸出し数の多かった生徒の皆さんに「ベストリーダー賞」の賞状と賞品(栞等)が図書委員会より贈られました。

今年度、昼休みの来館者数(延べ人数)は、100人を超える日が何日もあり、最高は143人。4～2月の貸出冊数は、2579冊、1日平均約19冊でした。



ベストリーダー賞(上位10名)

1位 131冊 平戸 快尚さん(2-4)	6位 40冊 古垣 遼介さん(1-2)
2位 92冊 相原ひなたさん(3-2)	7位 32冊 中山 莉央さん(1-2)
3位 84冊 増田 朱音さん(2-3)	8位 31冊 加藤さくらさん(3-4)
4位 67冊 黒田 光さん(3-3)	9位 29冊 小野 一葉さん(2-3)
5位 43冊 清田 頼毅さん(1-3)	9位 29冊 岸本 桜空さん(1-3)